

永觀堂幼稚園夏期林間學園の概況

永觀堂幼稚園

緒言

「蒲團着て寝たる姿や東山」と讀まれてゐる、三十六峯の一つなる聖峯の麓、禪林寺永觀堂境内に、大正天皇御大典御下賜の建物（朝拜殿）を應用して、昭和五年九月十日禪林婦人會の事業の一つとして、永觀堂幼稚園を創立し定員を六十名としてゐるの聲を擧げた。

かゝれば其の後、どうかして早く完備させたいといふ努力の結果、順調に肥立ちて本年五月、百餘坪の増築と共に定員を百二十名に増加し、目下定員を超過し居れり。而して去る七月二十三日よ

り八月十三日まで、山紫水明自然の美は兒童の遊園として、此の上もない背景を有する本園に於て、園兒を中心とし市内二十餘の小學校幼年級の參加を得て、百八十餘名の夏期林間學園を開いた。ここに其の狀況の概要をありのまゝ、いさゝか述べて見やう。

自動車通園

本園は本年四月十日より、遠方より通園する幼兒のため、自動車通園の途を開き、毎日數十名の幼兒を園の徽章を染めぬきたる、紫旗を翻せる幼稚園自動車に乗せて通園せるが林間學園中にも此

の自働車に便乗させて九十餘名の子達を送迎した京都の目ぬきの大道路を無邪氣な可愛らしい子達を乗せて馳せた、随分人目を引いたこと、交叉點の巡查さんに無邪氣な聲で「お早やうさん」とかけられては、どんな警官も「エヘヘ」と笑んでゐた、幼兒は園にて指定したる市内數ヶ所の小学校其他の場所に集合、或は距離の都合により個人の家まで行く所もある、嬉々として日々自働車で往復する幼兒の、そのうれしさうな顔は、とても筆には現はせない。

幼兒の登院と朝禮

朝早い子達は七時すぎより三々打つれ境内の紅葉の下を、そゞろ歩き大きな放生池の鯉など見ながら園に到着、それ／＼身のまはりの携帶品を所定の場所におさめ、すぐさま瀧の邊りの砂場いぢり、プランコ、水遊び等思ひ／＼の遊びにうつ

る、その内自働車組の幼兒や小學生が、それは／＼元氣な聲で「お早やうございます」といつてすぐお山の運動場で自由遊びをする。

午前九時に一同講堂に集まり朝の儀式にうつる式は君が代合唱に始まり、續いて御眞影奉開、合唱終るや、一同最敬禮、續いて御眞影奉閉をなし、次ぎに園長諸先生との挨拶を終りて、上着を脱ぎすぐ東運動場へ行き、一同ラヂオ體操などをなし、次に南運動場のお山に登り、朝の清淨なる空氣にふれて、小學生はそれ／＼學習の宿題にとりかかり、時間割によりて各々學科を指導す、幼兒は健康第一主義の下に、お山の上、お瀧、松林、小川の邊など、涼しい場所で自由遊戲や、或はお話、唱歌、ボール、日光浴等にて時間の經つのも忘れて心身を練つた。

晝　　食

午前十二時半に晝食の用意にかゝる、希望者に

は本山の賄で新鮮なる野菜料理など、お重で毎日百四十餘のお辨當をこしらへ、お菜は普通五種位とりまぜ、毎日の支度や後始末は、婦人會幹事数名が毎日お出でになつて、萬端のお世話をして下さつた、その幹事の内には六十七歳とか、七十六歳とかの老人もあり、盛夏の折汗だくくのお骨折りを見ては、涙を以て感謝せずにはいられなかつた、随分運動して腹をへらした子達は、先生の手がなるや、始まつたか始まつたかと運動場の彼處此處から、元氣な駆歩で坂を降り一同集合して、それはく靜かに疊敷の娛樂室に順序正しく座る、日々幾多の參觀者、保護者も、食事の時には兒童と共に座につき、園長中央に座したならば、一同箸箱から箸を取り出して兩手に持ち之を捧げて、次の歌を園長の發聲につれ

「箸とらば天地御代の御恵み

父母や師匠の恩を味はへ」

「いただきます」

と稱へて、みんな楽しく食事をなす、食事終らば一同箸箱を兩手に捧げて「ごちそうさま有りがたうございます」と稱へて、年長から順序座を離れ、新案の含嗽場にて口をすすぎ、箸箱は整理戸棚に納め、辨當は帽子掛けにかける。食事の早いもの遅いものゝため種々の蓄音器を聴かせた。

晝食後の遊び

食事後はしばらく心を靜かにせしめたる後、自由遊戲にうつる、プールの水遊び、お瀧に打たれ、砂場の砂いぢり、さも面白さうに暑さも打ち忘れ、殊に小川の流れに水泳着のまゝ、丸木を浮べて枕とし、さらく流るゝ水の音さゝて寝ね、更にその身を砂場に横たへ、日光浴に餘念のない兒童や、父兄達も流れによどまぬ水の邊りのベンチに

腰うちかけ、涼風に誘はれて午後はウト／＼と睡りを催す方もあつた。

午睡は涼しい本山の本堂に設けて、一般に形式的な晝寝はさけて自然に委せた。

其他の遊び

或時は小學生に年長の園児も加へて、東山登りにシャツ一枚となりて、見るからに一同元氣満ちて愉快で、園長が先頭に中央と後尾に一名づゝ先生がつき、父兄の方も珍らしい處の山登りといつて、喜んで行かれた、東山の頂上で京都市街を遠望し、一同思はず大きな聲で萬歳を唱へるなど何んとも云へない光景であつた、歸れば麥湯に咽喉をうるほす有様は筆で表はせない。

お茶の水附屬幼稚園の考案だとか申す、人形芝居を昨年十一月に購入し、この林間學園中に二回觀覽せしめた、先生も近來大變に上手になつて、

幼兒も小學生も面白がつて非常にたのしんだ、あちらこちらの幼稚園を時々拜見する、あの劇よりかこの方が眞の幼稚園的だと思つてゐる。



七夕祭には前日に一同が、南禪寺僧堂の竹林からもらうて來た、大きな竹を二本たてゝ、五色の紙を笹にむすびつけ、北運動場の隅に植立し、當日はその前に色々のお供物を高い臺の上に並べて

午後一時より小學生が中心となりて、談話、唱歌、遊戲等の自治的な練習をなした、本山から大西管長さんもお越しになつて、兒童の無邪氣なのに笑つてゐられた、その外多數の保護者も參られた。

八月六日には日本童話聯盟主事の松美佐雄先生が、丁度京都に立ち寄られたので、大塚喜一先生外一名と共に、お出で下さつたので、午前午後にわたり、誠に幼兒にふさわしい、お話を承ることを得て、一同は非常に仕合せに感じた、その外京都童話教育研究會や銀の壺社の諸先生が、前後六回に亘りお話を聞かせて下さつて、何れの場合にも幼兒や小學生一同が、靜かによく聞いて少しも退屈の様子を見受けなかつたのは、不思議な位であつた。

八月三日の午前は會員平安神宮へ參拜し、殊にお神苑内にて二、三の記念撮影を許された、其の外動物園、疏水、水源地等の見學も大變よろこ

んだ。

十二日の最後の茶話會に於ける、小學生の獨創的劇は殊に人目を引いた、尙ほ林間學園中に於ける兒童の粘土作品並に自由畫などを陳列せしに、その着眼點、獨創的なることなど、なか／＼感賞の價值あるもの少なくなかつた。

おやつとお歸りの歌

從來本園では全然おやつは與へないのであるが林間學園中は午後四時まで長い時間の事であるから、保健顧問小兒科専門岡部理吉先生と相談の上、午後三時に一回與へることにした、與へる品も同顧問の指示に従ひ、カルケット、ビスケット、牛乳、せんべい、いも等で別に嫌ひなものはないが、只だ牛乳は若干嫌いなものもあつた、いもは、それは大變よろこんだ、子供のすきないものかな——と思はれた位であつた。

身體検査

十二日の最後のおやつは、小學生はそれは／＼今までにない、ビスケット、をゆる／＼たべて「おやつのためさめ、また來年もこゝてたべるのだよ」と話した兒童の心中……、小川にて小蟹をとるやら、うなぎをとるやら、鯰をとるやら、しじみをとつて大よろこび、又はカブト蟲、カタツムリ、などもとつて自然の觀察は居ながらにして出来るから、一日も短かくすごして、午後四時のお歸りの式にうつる。

一同は順序よく講堂の席につき、お歸りの歌をうたひ、携帶品、身のまはりを整頓して退園す、お迎ひの自働車は玄關前に兒童を待つて、明日をたのしむ子達を乗せて四時過ぎ、さようならさうならの樂しき連發ではせてゆく、一日の重き任務を終へた先生は、その日の整理や、翌日の打合、その他の要務で毎日々々七時前には、歸ることは出来なかつた。

林間學園の始めと終りに保健顧問の外、京都府立病院内科、小兒科より三名の専門家の應援により、精密なる身體検査を行つた、殊に大便、尿の狀況まで見られた、最後の検査の結果によれば、兒童の健康増進は確實であつて、殊に比較的虛弱な子達の始めと終りにとつた寫眞を比較して一見明白である。體重は二キロも増加した者もあるが、大部分は一キロ前後である。要するに林間中に清淨なる空氣浴が、如何に幼兒の身體を健康にするか幾多の著しき實績を認めて居るも、茲には略して何れ専門的に調査中であるから、その完成を待つて發表するつもりである。

齒は一般に不良で、蟲齒は八十五「パーセント」以上に達して居る、齒の衛生習慣は幼時の時代に涵養するが肝要なので、本園はこの點に着眼し、

京都府立齒科大學教授、同附屬病院齒科部長、醫學博士本永七三郎氏に齒科顧問を囑託し、九月の保護者會に於て、「蟲齒のお話」に就いて通俗的に有益なるお話があつた、要するに母の衛生思想を向上し、園の齒科施設と家庭との協力を待つて、齒の衛生を根本的に進めたいのである。

本園は殊に虚弱な神經質などのお子達が、まだ入園日淺いのにな漸次健康上著しき良結果をもたらし、父兄の方から大變に喜悅せられてゐる、母親につれられて初めて園に來られたお子達が、歸ることを嫌はれ僕はこゝに居るから、お母さんにかへれと言はれる言葉に母親も、あつけにとられてゐられることもある。小學生ももつと／＼林間があればよいのにと、口々に申出てた。又保護者からは期間を八月末日まで延長して呉れとの申出であつた、保護者の申出では同情すべき幾多の理由があるが、一方園の方でも夏を無休暇で押

し通すことは、色々の差支へがあるので今回は豫定の通り終る事としたが、將來は大いに考慮すべき問題であると思つた、要するに色々の點から考ふるに、本園の環境が兒童の遊びに此の上もない樂園らしい、自然の力は實に恐ろしいものだ。

修了

いつのまにか最後の十三日になつた、午前十時左記の順序で修了式を舉げた。

- | | |
|-----------|-------------|
| 一、一同敬禮 | 二、君が代合唱 |
| 三、御眞影奉開 | 四、一同最敬禮 |
| 五、勅語捧讀 | 六、一同最敬禮 |
| 七、御眞影奉閉 | 八、開會の辭 |
| 九、園長挨拶 | 一〇、園兒の挨拶 |
| 一一、小學生の挨拶 | 一二、保護者總代の挨拶 |
| 一三、園歌 | 一四、閉會の辭 |

當日は蒸し暑い折柄に、保護者の方々多數であ

つた、幼児、小學生の挨拶の可愛らしい、天真爛漫な無邪氣な表現には一同感動せしめられ、婦人會員もうれし涙にむせんでゐられた。

次に本山の本堂前の石段で、一同の記念撮影を終つて、本山の本玄關より御堂に參詣した、そこで大西管長さんの讀經があつてから、兒童へ

「幼兒は車の心棒の様なもの……」

とのお話を承つた、そのあたり線香の香もゆかしく白から合掌の心におちつく、一同は打揃つて、みかへりあみだ様へも參詣した。

兒童と保護者との會食

次に本山大廣間にて、兒童、保護者約三百五十餘名が一同お膳について晝食をなす、園長の發聲で箸　らば……の歌も見事であつた。保護者一同をびつくりさせて、折から空がかき曇つて大驟雨、丁度食後の休憩で互に自由に話しあひ、兒童

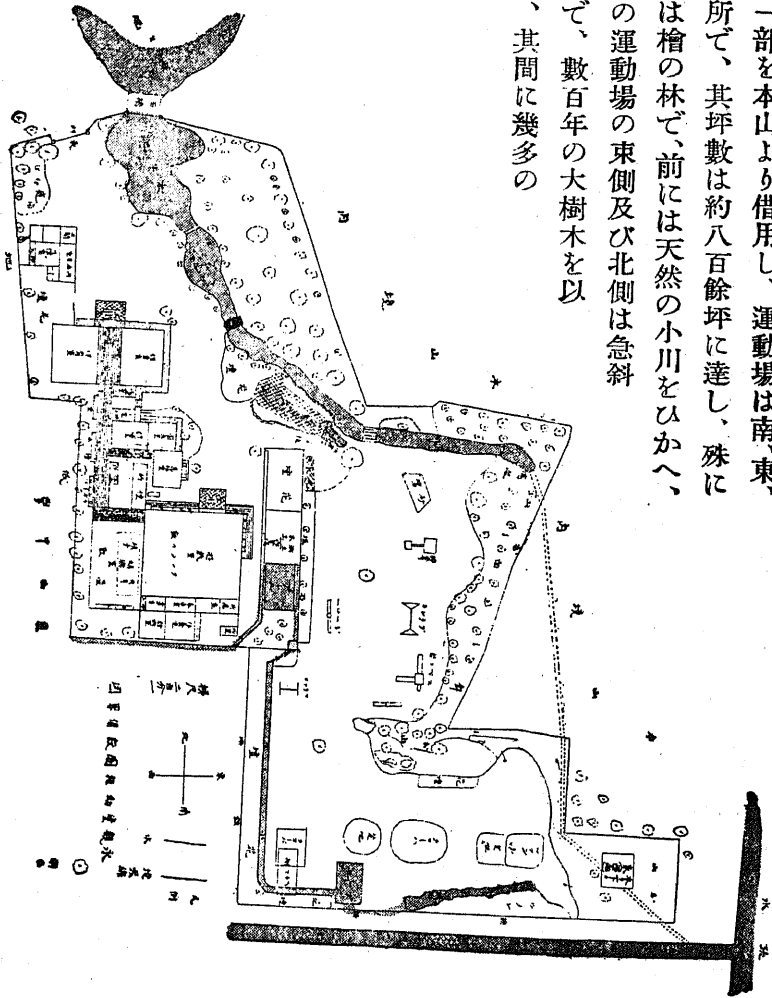
も記念のお菓子を手にして、皆んなのものの座敷の何處となくあそび、雨のやみまでやすんでゐた、午後二時頃雨はやみ自働車は、兒童と父兄を残らず同乗せしめて、さようならごさげんようとて、歸宅せしめた事は愉快であつた。

今度の三週間の林間學園は、小學生と園兒の合同ではじめて試みた事で、養護、訓練上からいゝと心配してゐたが、實際取扱つて見て、何等不都合な點なく、何等のいさかいもなく、日々愉快に遊んで、たゞの一人も健康を害したり、怪我をしたりするものなく、無事終了せしことは全く神明佛陀のお恵みによるものと、深く感謝する次第である。

本園設備の概要

この機會に於て、本園設備の概要を述べさせて頂かう、位置は京都市左京區永觀音堂町の、永觀

堂境内の一部を本山より借用し、運動場は南、東、北の三ヶ所で、其坪数は約八百餘坪に達し、殊に北運動場は檜の林で、前には天然の小川をひかへ、東及び南の運動場の東側及び北側は急斜面の高地で、數百年の大樹木を以て蔽はれ、其間に幾多の



楓が混在して、新緑紅葉の頃は實に美事なものである。

(一) 建物に就て

- 一、遊戯室 四十九坪の板張に、だんつう敷き御下賜品そのまゝである、南側中央に奉安室と其兩側に三個の附屬室を有す。
- 二、娛樂室 二十二坪の疊敷。
- 三、保育室 二十四坪(二室)
- 四、廊下 二十六坪の板張りで色々の保育用に應用す。
- 五、應接室 五坪。
- 六、職員室 十坪で園長室と保姆室に分る。
- 七、醫務室 八坪で齒科と内科に分る(目下内部改造設計中)
- 八、其他 標本室、含嗽場、湯沸場等。
- 九、小使室と附添人控室は表門内に別建物と

せり。

(二) 設備に就て

- 一、運動場 三ヶ所で約八百坪。
- 二、大砂場 一ヶ所で東運動場の鶯瀧の附近であり。
- 三、プール 三個。
- 四、小川(人工) 長さ約二十五間。
- 五、小川(自然物) 長さ約三十間で鶯瀧の流れなり。
- 六、花園 五ヶ所。
- 七、大鳥籠 一個で長さ約四間幅約二間で中央に小川の流れを引き入れあり
- 八、水族館 三個で小川より水を引けり。
- 九、兎の家 一個。
- 一〇、放生池 鶯瀧の下流で園の一部となせり
- 一一、其他多數の運動具及び粘土、木工場等。

(昭和六年九月十五日)